

赤城農林水産大臣及び甘利経済産業大臣による ドーハ・ラウンドに関する共同ステートメント

2007年6月22日

- 1．6月19日よりドイツ・ポツダムにおいて開催されていたG4（米国、EU、ブラジル、インド）閣僚会合は、農業やNAMA（非農産品市場アクセス）等に関する論点について意見の収れんを見ることができず、21日に終了したと承知している。
- 2．我が国は、従来から、G4の枠組みよりも農業の輸入国と輸出国のバランスのとれた、また、より広範な交渉分野に対して利害関係（ステーク）を有する枠組みであるG6の方が議論を収れんに導くために適切である旨を主張してきたところであり、今回予定されていたG6が開催されなかったことを残念に思う。
- 3．4月12日のG6閣僚コミュニケや6月8日のG8ハイリゲンダムサミット貿易宣言でも述べられているように、我が国は、2007年末までに交渉を終えるために貢献していくことに引き続きコミットしており、ジュネーブにおけるマルチのプロセスを支えるラミー事務局長、一般理議長、各交渉グループの議長、そして全ての加盟国と協力して作業を続けていく。
- 4．我が国としては、交渉妥結のために、あらゆる交渉の枠組みに積極的に参画する用意がある。我が国は、今次ラウンドが開発ラウンドであることを踏まえ、交渉の速やかな進展のため、先進国及び途上国と協力し、農業の輸入国と輸出国のバランスをとる等、積極的かつバランスのとれた成果が得られるように、各国間の橋渡し役を果たしつつ、最大限の努力をしていきたい。